

白山スーパー林道のURL  
<http://www.hakusan-rindo.jp>

## 白山スーパー林道



### 白山自然保護センター中宮展示館 (600m)

昭和48年、自然保護調査研究のため建設され、白山国立公園に生息する珍しい動植物の生態を知る貴重な資料や、白山麓の風俗資料などが展示されています。白山の自然を知る格好の手がかりとなる。また、自然保護センター後方から蛇谷川に沿って、チライ谷まで歩道がある。自然観察園として、ニホンカモシカや野猿の生態観察ができますが、自然の動物たちは気まぐれです。人間の都合に合わせてくれないので、そのつもりで野鳥の囀りを聞くのもよい。センターの玄関にはサル、クマ、カモシカの足跡を形取っており、訪れた人達は、初めて見る動物の足跡に感激している。



### しりたか滝(後高) (630m)

しりたか山を源流として、蛇谷に入って1番目の大滝である。山水霊谷美というか白絹を垂らしたように落ちる水と深く削られた岩壁、僅かの亀裂に根を張り、枝葉を伸ばして青々と茂っている松などの植物群性が素晴らしい。まさに絶景である。また、この滝は3段になっており、見る角度、水量によって違うところが面白い。さらに、秋の朝日が出る11時ごろまで、滝の中程に虹が舞う素晴らしい滝である。



### あかち たき 赤石の滝(三味線滝)



昔、金を掘っていたところで、ベニ石(赤石)がいぼ状に岩石にくっついていたので赤石谷と呼ばれ、又、水が増水すると三味線の糸のように三方に分かれ水が流れるところから、三味線滝と呼ばれている。普段は、谷が浅いことから水が少なく本来の滝らしいところは見られないが、降雨時は上方からも水が滴り、霞がかかると水墨画の深山風景を醸し、正に絶景である。

### かまそこ たき 岩底の滝 (650m)



滝の上部に直径2mの釜形の淵があり、10m位の流木を入れても沈んでしまうという底なしの淵である。修験者はこの滝から尾根伝いに仙人窟に登り修行したと言われている。昔、女人禁制の聖地を犯し、この淵まで登り神罰を受けて淵に落ちて死んだ女がいるという話が残っている。この周辺は、蛇谷峡谷のV字地形の代表的なもので、断崖絶壁の岩肌とそこにそそり立つ松の勇姿は見事という言葉しか見つからない。新緑の時は水の量が多く非常に見応えがある。

### 蛇谷大橋 (700m)

蛇谷川峡谷の清流の眺めが、左から右に替わる唯一の大橋で、長さ70m、高さ45mあり、峡谷の美しさを一層引き立たせている。橋のアーチの間から清流を覗くと柱状節理の岸壁に姫五葉松(キタゴヨウマツ)がそそり立ち、とうくずれ谷の水が、滝として流れる景色は、素晴らしい。(大橋付近の岩石は、溶岩が冷え固まり収縮するときに見える柱状節理が見られる。)



### かもしか滝(五色の滝)(五重の滝)(とうくずれ滝) (700m)



このあたりは、カモシカの生息密度が日本一といわれる地区で、かもしか滝という。修験者の盛時には五重の滝と呼ばれていた。また、滝の流れが飛び跳ねているなど、いろいろな形があることから五色の滝ともいいます。さらにこの滝の上方の岩盤は、砥石になるので、とうくずれの滝とも呼ばれている。滝上のそそり立つ岸壁にニッコウキスゲの花が美しく群生している。岩つつじ、姫うつぎが咲く季節も見ごたえ十分である。

### 蛇谷園地



駐車場の下は、ブナ、ミズナラの天然林の森林浴を浴びる園地と、イワナの棲む蛇谷の清流を眺めながら、姥ヶ滝と親谷の湯まで散策すると良い。遊歩道が整備されている。

### マグマの噴出跡岩脈

道路の法面に柱状節理が横になっている部分が見られます。(通常見られるのは縦の節理) この岩石は周辺の岩石(溶結凝灰岩)ができた後に、地中からマグマが上昇して固結したもので岩脈と言う。岩脈は、ここと林道の他の場所や白山地域でもしばしば見られますが、大昔の火山活動を知るうえで重要である。



### 親谷の湯



姥ヶ滝の対岸に滝の爆音と清流を眺めながら入浴ができる露天風呂がある。昔、飛騨からも国見峠(国見山)を越えて、この湯で病気を治したといわれ、皮膚病にとってもよいと言われています。温泉効能は、泉質(含重曹食塩泉でナトリウムや塩素、炭酸水素イオンが多く含まれているのが特徴)もよく名瀑、姥ヶ滝を見上げる景色もよく、男女混浴ということから日々多くの人が入浴にきています。近くに自噴する温泉がいくつもあり、川の兩岸の割れ目から95°Cの湯が流れている。

うば

### 姥ヶ滝 (800m)

1990年に「日本の滝100選」の一つに選ばれた滝で、昔、ここで老仙女が白髪をといっていたという伝説があり、岩肌に沿って落ちる数万条の流れを老婆の白髪にみたてこの名が付いたといわれます。



じょうけたき みずのり

### 耐ヶ滝(水法の滝)

蛇谷八景の一つで、蛇谷2号トンネルを抜けると直ぐ左頭上に白絹のように流れる雄大な滝、水法の谷(滝)が出現する。(滝を真二つに割って林道が通過しているため身近に見られる。)男性的な姿と姥ヶ滝の真向かいにあるため、姥に対して耐ヶ滝と呼ぶようになったと言われている。岩盤の中間に島のうように大木が茂り滝と相まって大変美しいところである。



### アバランチ・シュート (800m)



一般的な谷の横断面はV字型になりますが、蛇谷の谷壁は雨樋のように浅いU字型の横断面をしています。蛇谷の地形の特徴で、アバランチ・シュート(abalanche chute)と言われるものです。アバランチは雪崩のことで、シュートは溝のことです。

急峻な地形で雪崩が繰り返し起こるため、植生を破壊して、もろくなった岩片を削り取り、U字地形になったと考えられています。このような地形は、多雪地帯である日本海側の山地に分布していて、そのなかでも硬い岩盤地質のところが多いようです。アバランチ・シュートの尾根には、キタゴヨウマツ、クロベ等の針葉樹が生えて、深山的雰囲気を一層引き立たせている。

### ふくべの大滝 (900m)

白山スーパー林道の随一の名所です。

落差86mといわれる蛇谷随一の大滝で、水は断崖を地響きと号音を上げて落下、むき出しの岩に衝突。舞い上がる水煙は雄大にして、豪壮に、時にはそのしぶきが道路をおおうこともある。この周辺の岸壁を蛇谷金欄銀欄壁と言った人もあり、まさに大自然のパノラマである。



この滝は、林道開設によって日の目を見た、「幻の滝」と言われていて、この滝の上方に同様の「幻の滝(交わりの滝)」が存在する2段の大滝である。



滝の上に滝があり瓢箪になるので ふくべと名前がついた

### 国見展望台 (1100m)



石川県側に入って2番目のヘヤーピンカーブで標高1100mに位置し、初めて林道から白山が見える見晴らしのよいところである。東に妙法山(1,775m)と念仏尾根、蛇行するスーパー林道、南に白山、下方に親谷、子屋谷、霧晴峠、が見える。白山展望台には双眼鏡が備えられている。

### ブナの原生林 (1300m)



12号トンネル対岸から県境まで、樹齢250年以上といわれるブナの原生林が見られる。

ほうじょう

ブナは、「母なる森」「豊饒の森」「緑のダム」といわれるように環境のよいところの代名詞に使われるイメージのよい木である。新緑時の淡緑と残雪、紅葉時の深紅のペルシャ絨毯、落葉時の華やかさが過ぎた扇骨格とその美しさを表現する言葉が見つからないほどである。

ブナ林のすそには、森のダムを証明することく水芭蕉が群生している。



### 白山展望台 (1300m)

白山の主峰三山(剣が峰2,677m、御前が峰2,702m、大汝峰2,684m)と地獄谷が最もよく見えるところである。



とが

### 梶の木台 (1350m)

梶の木台駐車場から15分ほどで展望台に到着する。



白山、三方岩岳が遠望できるほか道中の天然林内は、大木が淘汰して次の植生が生える自然遷移の状況が見られる貴重な学習の場所でもある。根上りとなって熊等の越冬に格好の場所でもある。

### 三方岩岳駐車場 (1450m)



白山林道で最も高い位置(1,450m)にある駐車場であり、トイレが完備され多くの人が駐車する場所である。7月1日には、残雪とお別れする「雪おくり祭り」が開催され、合掌造りの雪像と地元物産が販売され、にぎあう1日である。

ここから、三方岩や野谷荘時司山、妙法山へ登山する登山道の入口がある。(林道の閉鎖時間があるので、帰りの時間を考えて登山計画すること。)

### 三方岩岳 (1736m)

三方岩岳駐車場から登山道を40分ほど登ると山頂(標高1,736m)へ到着する。

山頂には、ハエマツや高山植物が多く見られ、高山の雰囲気十分に楽しめる場所でもある。また、山頂からの眺望は良好で、北西に筈ヶ岳と大笠山、奈良岳へ至る山稜を望み、南西に妙法山



から白山三峰、加賀禅定道などの稜線を遠望することができる。東方には白川村のダム湖見下ろすことができ、晴天時には遠く北アルプスの連山から乗鞍岳などの山並みを眺むことができる。

三方岩岳の名称の由来は、稜線の北から東の三方向に加賀、越中、飛騨方面に向いているので呼ばれているこの岩を加賀岩と呼んでいる。

この加賀岩に岩窟があり、昭和38年8月に中国製の水中(青白磁で水差し製品、小松市立博物館に収蔵)が出土している。水中は鎌倉時代の遺物であることから岩窟は当時この山稜を修行の場とした修験者などが利用した遺蹟と推定されている。

### 白川郷合掌造り(世界遺産)

白川村荻町は、合掌造りの民家集落として重要伝統的建造物群保存地区、世界遺産として

平成7年12月6日に指定された。白川村の合掌造りは越中五箇山と荘川村のものとは違って、壮大な切り妻屋根の「かや造り」と呼ばれるもので、四、五階建ての「古代、ビルディング」という感じである。積雪の多いこの地方では、雪の重力に耐えることが重要であるため、柱は一間ごと太いものを立て、屋根は約60°にしてある。この屋根の葺き替えには村内の男女総出の奉仕作業で行われる。建築には釘、カスガイの金具類は一切使わず、クサビのほかネソ(学名マルバマンサク)とよばれる粘りけのある木と藁縄でしめあげる。二階から四階まではツシと称して主に養蚕の場ですが、物置や作業場としても使用された。二階以上の床は、板張りではなく篠竹を編んだスノコを敷き並べてあり、このため、一階の炉火の煙が上までのぼり、屋根裏にすすが付着して防虫効果として役立った。

